作成年月日　令和７年７月７日

令和７年度「アウトリーチ（訪問支援）研修」　実地研修計画書

【１　機関・団体概要】

機関・団体名	特定非営利活動法人わたげの会 （社会福祉法人わたげ福祉会）
機関・団体代表者 （役職・氏名）	理事長　秋田　敦子
所在地	〒982-0001 仙台市太白区八本松一丁目１２－１２
電話番号／ＦＡＸ番号	022-246-8457　／　022-246-8457
ＨＰアドレス	http://watage.or.jp
研修実施場所	〒984-0823 仙台市若林区遠見塚一丁目 18-48（NPO 法人わたげの会含む三か所での研修）
研修実施場所の最寄駅	初日：地下鉄東西線「薬師堂駅」 最終日：地下鉄東西線「薬師堂駅」（間で地下鉄長町一丁目を利用）
団体概要 （設立趣旨等）	不登校・ひきこもり者を含む青少年、並びに中高年ひきこもり者、障がい者の社会復帰支援を行って２９年目になります。家族からの相談からスタートすることが多いため、家族支援に力を注ぎながら、本人に合った繋がり方（アウトリーチを含む）を、家族、本人が社会から孤立をしない為の包括的支援を目的としたネットワークを構築しております。困難を抱えた若者の社会参加を目的とした相談支援、家族勉強会、居場所支援、就労支援、共同生活支援を提供しながら、社会参加に向けて必要な物を身に着け、生きる目的をもって生活を営むことが出来る社会の構築に寄与することを目的としています。
職員数	４８名（内訳：常勤３９名　／　非常勤　９名）
機関・団体の アウトリーチの特徴等	平成９年設立当初から、不登校・ひきこもり等の困難を有する子ども・若者及びその家族に対し、面談を継続的に行いながら、ケースによって途中からアウトリーチをスタートし、面談を継続に行いながら、家族支援に力を注ぎ、個別面談と心理教室（グループワーク）を行いながら、家族、支援者、各関係機関が連携しながら支援を行っています。アウトリーチをスタートするまでの期間を、時間をかけ信頼関係を築き、家庭という土台の基礎固めを学びながら、本人が関心を示すようになった時点で訪問を行っております。ここ数年は親世代、本人も高

	齢化となり、自宅近くのコミュニティーセンターなどへ出向いて相談をするケースが増えてまいりました。家族勉強会で力をつけた家族が、家族サポーターとして訪問する場合もあります。このように、アウトリーチの必要性は大きいものの、ひきこもっている本人の様子を正確に把握し、支援者が自信をもって訪問に望まないと、途中で中断してしまうこともあります。そのためにも、事前に家族・他機関等での情報共有に時間をかける必要があります。家族のタイミングではなく、本人のタイミングやチャンスを見極めながら訪問をスタートします。
機関・団体で運営している 相談・支援機関名	仙台市委託事業：「仙台市ひきこもり地域支援センター」
	仙台市委託事業：「居場所事業（第一フリースペース)」
	仙台市委託事業：「小規模地域活動支援センター（第二フリースペース)
	仙台市委託事業：「ひきこもりオンライン居場所・ここにいるよ」
	宮城県委託事業：宮城県ひきこもり地域支援センター・南支所」
	宮城県委託事業：居場所事業「フリースペースなとり
	宮城県委託事業：宮城県・日本財団委託事業「ワークダイバーシティモデル事業「らしくワークサポーター」

【２　令和６年度中のアウトリーチの実績概要】

令和６年度１９０件（本人対象１４３人、家族対象４７件）相談件数は１６０１件です。
当法人では、アウトリーチを開始するまでの面談を、より丁寧に時間をかけます。来所面談が可能な方は、個別面談と、家族教室を併用して行い、高齢の方へは徐々に訪問に切り替えていきます。最近は、地域に出向いての相談件数が増えており、高齢化がもたらす現象だと思います。別事業では出てきにくい人向けに、アバターを用いたオンラインの居場所を週一回行うことで、本人の参加件数も伸びています。
取りこぼしのない支援を心掛けていたことによる成果だと思っています。

【３　過去２年間におけるこども・若者の支援に関する研修実績】

宮城県子ども若者問題協議会出席（５回)・子ども若者問題協議会調査委員会（２回)・子ども若者担当者会議（２回)・仙台市社会福祉法人ネットワーク研修講師（２回)・仙台市社会福祉協議会主催研修会講師（８回)・地域包括センター主催研修会講師、オンライン検収も含む（６回)・仙台市内ひきこもり相談会（24 回)・東北文化学園大学ＰＳＷ・ＳＳW授業（４回)・宮城県市町村職員研修会講師（８回)・保護課職員研修会講師（２回)・内閣府アウトリーチ研修講師（２回)・家族対象研修会（240 回)・中小企業同友会研修会講師（3回)・宮城県内就労事業所研修会講師（８回）当法人内一泊二日家族研修会（2 回）

【４　過去３年間における国又は地方公共団体の委託事業や自主事業等】

仙台市委託事業：「仙台市ひきこもり地域支援センター」 仙台市委託事業：「居場所事業（第一フリースペース)」 仙台市委託事業：「小規模地域活動支援センター（第二フリースペース） **自主事業:「宿泊訓練寮メゾンわたげ 18 名」・「学びなおし事業・学習サポートセンター」** 宮城県委託事業：宮城県ひきこもり地域支援センター・南支所」 宮城県委託事業：居場所事業「フリースペースなとり」 宮城県委託事業：宮城県・日本財団委託事業「ワークダイバーシティモデル事業「らしくワークサポーター」

5　実地研修責任者・担当者】

	実地研修での役割 (実施責任者・担当者　等)	・保有資格（アウトリーチ関連） ・アウトリーチ経験年数
1	統括・コーディネーター	交流分析士・アウトリーチ歴 29 年
2	センター長・コーディネーター	児童発達サビ管・２７年
3	ＰＳＷ・コーディネーター	精神福祉士・２２年

【６　研修生の受入条件】

	受　入　条　件
受入可能日数	３日間～１０日間（それぞれの希望日数が可能ですが、出来れば 5 日以上が研修内容からしてベストです。）
受入可能日程	10 月 8 日（水）～12 月 19 日（金）の間で、研修生の希望日で受け入れ可能です。
受入可能人数	６名受け入れ可能です。（一回の研修日に一名から 3 名可能です。） １名から２名３名で期間の間でしたらいつでも受け入れ可能です。
保有資格（アウトリーチ関連）の要否、 その他の受入条件	保有資格は問いません。

【７　実地研修内容】

実　地　研　修　内　容 ※下記の「初日」～「最終日」までの研修内容については、過去の実績に基づいた予定となります。	
実地研修全体の概要	訪問関しての事前把握事項や、家族と一緒に訪問に至るまでの計画を、作成することの重大性を理解してもらいながら、訪問者が支援者臭を出さないよう、自然な形で繋がることを学んでもらいます。最初は本人に会えなくても、家庭内に風を入れる役割にもなっています。

研修**初日**の**開始**予定時刻	研修**最終日**の**終了**予定時刻	１０：３０　開始	１６：００　終了
２日目以降の研修開始時間	２日目以降の研修終了時間	１０：００　開始	１７：００　終了
初日の内容		・オリエンテーション ・法人概要、事業内容、研修内容、留意点等について説明 ・書く事業所見学（スケジュールに合わせて日程変更もある）	
アウトリーチ（訪問支援）を実施しない日の内容		・訪問支援について事前学習 ・当法人へ通っている若者たちとのヒアリングと交流（訪問して通いだした人を含む） ・アウトリーチ現場へ同行訪問 ・アウトリーチでは本人に繋がるまでのプロセスを、丁寧に進めることが重要であり、いかにタイミングを合わせていくかが大切である	
アウトリーチ（訪問支援）同行日の内容		・同行当日、訪問スタッフとの最終打合せ ・訪問時の様子（家庭内・家族・本人）の観察と把握 ・帰宅時にスタッフと振り返り	
最終日の内容		・訪問時における自分の立ち位置や、言葉の重要性を再確認 ・実地研修の振り返り ・訪問に至るまでに準備することや把握しておくことの確認 ・訪問のタイミングを見極めることの重要性について振り返る	
前年度実地研修でのアウトリーチ実施回数			
今年度実地研修でのアウトリーチの回数（予定）		それぞれの研修日程数にもよるが、２回～３回実施したいと考えています。	
研修生の宿泊について		メンバー用に宿泊施設はありますが、空き部屋でよろしければ可能です。 社会福祉法人わたげ福祉会と NPO 法人わたげの会に便利なホテルは長町周辺がお勧めです。	
休業日について		土・日・祝祭日	
備考欄（服装等）		作業やスポーツのプログラムもありますので、運動しやすい服装と運動靴を用意してください。	